

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	コロナ禍において、発達障がいや非行等課題のある子ども達への 学習支援・生活支援と居場所づくりで生きる力を育成する
2 事業実施期間	2021年7月 ~ 2022年2月

<p>3 事業目的</p>	<p>【事業を行うことにより解決された課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染拡大による休校で、生活リズムが乱れ学習に遅れが生じやすい発達障がいのある児童生徒や不登校に陥りやすい児童生徒への学習支援、生活支援を行い<u>生きる力</u>を養うことに繋がった。 ・生活リズムが乱れて非行が加速する生徒達もいるので、しっかり支援を行うことを目指した。その結果、塾に通う生徒達の生活リズムは乱れることなく、学校に通うことができた。 <p>※特別支援学級に在籍している塾生 2 名が学校ではあまり勉強しなかったが、静かに勉強に取り組む時間が増えたと学級担任から連絡があった。最近、塾でもレクの後の最後の十数分間集中して、「ことわざ」の勉強をするようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題解決の一助（発達障がいや不登校に多い貧困問題）になるように支援をする。・・・このことは、那覇市社会福祉協議会の「糸」と連携して、3 世帯に米（5 キロ）を月に一回、定期的に二度届けたり、ラーメンを 12 袋ずつ分けて持たせたりした。その内 2 世帯は多子家族（9 人兄弟、8 人兄弟）、1 世帯は祖父母に育てられている生活保護世帯である。 <p>また、塾において塾生の一人の頭にシラミがいることが分かったので、那覇市の寄り添い支援員と連携して、家庭に報告してもらいようにした（その家庭は寄り添い支援員が関わっている）。また、学校にも報告し、担任教師は養護教諭に連絡して再確認してもらい、保健指導もしてもらった。兄弟全員シラミがあり、散髪や薬用シャンプーの使用で改善された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育方法（<u>イエナプラン教育</u>）を試行的に取り入れ、教育機器（パソコン、タブレット）等を使いこなせるよう指導し、楽しく学び、且、それを使って在宅での学習も可能にするように取り組んだが、まだ道半ばである。子ども達は楽しく塾に来るようになったのは成功したのではないかと思う。 <p>異学年で一緒に学習に取り組む形を取り入れると、年上の子はしっかり教えようという気になるようで、自分も分からないと大変だと思うのか調べようとする様子が見られた。また、いろいろ生活指導面でも面倒見る場面が多くみられた。このように異年齢集団の教育もよい面が多いことが分かる。</p>
---------------	--

4 公益性	<p>【市民や地域への社会貢献度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料学習支援や生活支援を行うことにより、課題のある中学生も高校進学への希望が持てる。また、居場所を作ることで小学校から所属意識の欲求や自尊感情の欲求を満たし、生きる力を育むことができる。(※マズローの欲求の階層による) ・課題のある子ども達の中には貧困を抱えている子もいるので、貧困問題の解決の一助になると考える。 <p>○10月から女子中学3年生2名が本塾に入りたいとって母親と一緒に来た。理由はどの塾に行っても長続きしないのでこの塾に通わせたいとって来た。この塾は進学塾ではないことを説明し、気に入ったら通ってくださいと話して通ってもらうことになった。その後、この塾で勉強したいと現在もこの塾で学習している。</p> <p>○年明けて、3年生男子3名がこの塾のことを聞いて、特別支援学級在籍の生徒達が、入塾して現在までしっかり勉強を続け、受験に向けて頑張っている。</p> <p>一人の男子生徒(発達障がいのある生徒)は、自分は特別支援学級だから泊高校しか行けないと思っていたらしいが、この塾に通って、少し向上心が芽生えたのか那覇工業の電子科に行きたいとって第1志望は那覇工業に変更した。今、合格に向けて頑張っている。</p> <p>○女子学園を9月に出てきた生徒が(現在16歳)この塾に通いたいと話があった。</p> <p>母親とは、旧担任と一緒に学校で話し合いの機会を設けた。母親は塾に通わせ、悪い遊びに行かないようにしたいということと、また、高校進学も考えているので塾で少しは勉強させてほしいという願いもあるので本塾に受け入れることにした。時々、夜遊びしている動画が送られて、心配な時期もあったが、小学校2年生から算数が分からないとって、小学校2年生の教科書と問題集を買ってきて勉強したこともあり、少し学習意欲が出た。2月13日にヒューマンアカデミーの通信高校に合格したと本人から報告があった。合格した現在も3月までは通うとって、下級生たちと楽しく塾で勉強している。今後も注意深く見守っていきたい。このように、<u>非行に走った子が更生するため、学園を出た後の受け皿として本塾が少しお手伝いできているのではないかと思う。</u></p>
-------	---

<p>5 事業内容</p> <p>* 具体的に記入してください。</p>	<p>①実施場所 中学生の部 那覇市古波蔵 3 丁目 20-1 千代正マンション 1 F (そてつの会内)、 小学生の部 那覇市古波蔵 2 丁目 1 8-2 古波蔵むつみ会館</p> <p>② 対象者 小学生、中学生、高校生、卒業生</p> <p>③ 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障がいや・非行傾向の児童生徒や不登校で学力の低い子のため、タブレットやパソコン等、新しい機器、教材(ロボット作り、顕微鏡、話す地球儀等)を活用し、楽しく学べる工夫をした。小学生は読み書きの基礎・基本を徹底。掛け算九九の習得。中学生は理科、社会等、また、漢字の読み書きの習得にも力を入れた。 ・ <u>児童生徒の生きる力の育成のための新しい教育方法の試行(イェナプラン教育)異年齢集団で自分達で課題を見つける教育方法</u> ・ 学生ボランティアの活用も行い、個別指導を図った。
<p>6 実現性・感染症対策</p>	<p>【緊急事態宣言等の発令時における活動の取り組み】</p> <p>【コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急事態宣言が出たら生徒とZOOMで結び、声掛けで励ましや外出の抑制と健康確認等を行う予定であったが、学校があまり休校になる事がなく、しなくてもいい状況になった。 ・ アルコールによる手指消毒、透明アクリル板の設置、検温等徹底して行った。<u>また、業者にウイルス対策の光触媒を塾全体に施工してもらい、感染対策の強化をした。</u> ・ 新しい教育機器(パソコン6台、タブレット12台等)を活用できるように指導し、在宅での学習を可能にするように準備はしたが、塾内で活用している。 ・ 臨時休校は夏休みの8月後半に1週間あった。K中学校は他校より一週間早く1学期後半のスタートを予定していたのでその期間が普通通りの開始になっただけだったので塾としては予定通り1学期後半はスタートできた。また、<u>1月後半には分散登校があったり、学級閉鎖が1回あったりしたが塾は休まず学習支援を続けた。また、不登校対策として、生徒が学校を休み始めるとアウトリーチで声掛けをし、塾に連れてくることもした。(3人の生徒に3回実施)うまくタイミングが合って学校を長く休むことがなくなった。</u>

<p>7 波及効果・今後の展開</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達障がいのある児童生徒や不登校等、非行など様々な課題を抱えた児童生徒の学習支援や生活支援を行うことにより、誰も置き去りにしない社会の構築に寄与する。 2 持続可能な取り組みを行うことにより、誰にでも平等な教育の機会を保障する。 3 新しい教育方法（イエナプラン教育）を実践することにより、学びが楽しくなり<u>生きる力</u>の育成が図られる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※イエナプラン教育は、文科省が公立小学校において初めて認めた教育方法である。2022年に全校でイエナプラン教育を開始することを目指して広島県福山市立常石小学校が低学年（1～3年）で実施している。小学生、中学生に実験的に実施した。</p> <p>効果といえるか分からないが、小学生はあまり勉強、勉強と言わないようにしているので、遊びの中で学んでいることを実感している。例えば、バドミントンに興味を示した小学校2年生の男子（発達障がいがある）が自前のラケットを買って、塾に来るようになりそこから活発になり自分を前面に出すような力強さが出てきた。また、集団に慣れて、ぶつかることも経験して机の上の勉強だけでは学べないことも沢山学んでいるように感じる。算数が得意なので、そこはプリントでしっかり学習させることも取り入れている。</p> <p>中学生も塾に喜んで来るようになっている。学習課題は、自分達で見つけるようにさせている。顕微鏡を持ってくると自分たちで公園に行き、水たまりを探してミジンコはいないか水たまりの水を採取して顕微鏡で探すようになった。また、植物の茎を輪切りにし、その中を観察させ、イラストで描写させている。その時に、顕微鏡の各部の名前を覚えさせている。また、ロボット作りをさせると楽しく一生懸命取り組む様子が伺えた。自分達で何かに真剣に取り組む様子を見る限り学習意欲が出たのではないかと思う。このことは、<u>那覇市の「糸」の主催で行った、学習支援をしている団体との交流会でも話をさせてもらった。少しずつ、輪を広げていくようにしている。</u>また、今後は、タブレットを使い動画の編集をしたいと思っている。男子生徒が動画を作りたいと言って、スマホで悪戦苦闘していたので、取り入れてみたいと思う。自分たちのやりたいことを見つける教育も必要である。</p> </div>
---------------------	--

8 その他の反省点 など	まん延防止が発出されて学校の修学旅行も1月中旬から3月16日、17日に延期になった。本塾の2年生は修学旅行に参加しないので、代わりに少人数で郊外学習に行く計画をしていた。修学旅行と同じ頃にタイミングを合わせて郊外学習は計画していたので、3月後半にするか検討中である。集団での体験はとても貴重な体験ができるので何とか、実施したいと考えている。	
9 スケジュール (なるべく詳細に記入してください。予定でかまいません)	時期	内容(場所・参加対象・人数など)
	7月	小学校の部、中学校の部 学習、生活支援、小・中学生、高校生合計12名、
	9月	行事、1学期後半、学級開き(同上)
		誕生日会、生活支援
	10月	学習支援、誕生日会、生活支援
	11月	学習支援、誕生日会、生活支援
	12月	高校入試模擬試験、行事(クリスマス会) 誕生日会
	1月	学習・生活支援、レクレーション
	2月	高校入試対策、誕生日会、
		(現在19名に児童生徒が増えた)
<p>10 事業実施に関して協働(連携)した行政機関・他団体の有無。該当する箇所に☑等を記入してください。)、協働の内容について記入してください。</p> <p>行政との協働(☐企画に協力 ☐資金提供 ☐告知などの協力 ☐その他())</p> <p>他団体との協働(☐企画に協力 ☐資金提供 ☐告知などの協力 ☑その他(コバンチさん学習支援、うちな一屋の学習支援)</p> <p>☐ 無し</p> <p>協働の内容</p> <p>新しく学習支援をしたいという団体(うちな一屋)の支援を3回行うことができた。 ・コバンチさん(子ども食堂)も1回学習支援に行った。</p>		